

# よろこび

聖徒のための情報誌

### 今月号の内容

- 積尊成道会(1面)
- よろこびちゃんの質問箱
- 教学・靈断法解説講師合同
- 研修会(2面)
- 日蓮大聖人の歩まれた道
- 法華経のお話(3面)
- よろこび法話(4面)

平成25年(2013年)12月1日(日)  
12月号

発行所  
〒101-0051  
東京都千代田区神田神保町3-25-11  
九段中央ビル702  
日蓮宗靈断師会九段事務所  
電話 03-6272-9340  
FAX 03-6272-9341

### 日蓮宗靈断師会

会長 新聞 智雄  
編集人 松本 恵昌  
購読料 1部 105円  
毎月1回1日発行  
日蓮宗靈断師会ホームページ  
<http://www.yorokobi-reidanshikai.jp>  
よろこび投稿メール  
[yorokobi@yorokobi-reidanshikai.jp](mailto:yorokobi@yorokobi-reidanshikai.jp)

平安であつてほしいと願った一年も、明暗相交え、師走の月となりました。さて、十二月八日は積尊成道の聖日です。ご存知のごとく、積尊は釈迦の王子として父淨飯王、母摩耶夫人のもとに誕生されました。夫人は当時の習慣に倣い生国であるコーリヤ国へ里帰りの途次、ルンビニーの花園で休息され、その地で積尊を出産されたと伝伝によつて知ることが出来ます。

ところが残念にも、王子誕生を喜ぶ釈迦の人々は、夫人の悲しい死の報せも同時に受け入れなくてはなりません。その後、夫人の妹である摩訶波闍波提が継母となり、積尊は実子のごとく、若い叔母の愛情を受け成長していきます。

しかし、めぐまれた裕福な環境の中にあつて、積尊は沈思黙想される日々を過ごします。原始経典の中に積尊ご自身の懐旧談として、

「それは国家の祭事である農耕祭に出席した折、多くの牛が犂を付けて田を耕すのを眺め、土の中から虫が掘り出され、その虫を小鳥が啄み去る。更に小鳥は猛鳥に狙われる。この光景に誰もが興じる中にあつて、自分だけはこの雰囲気にとけ込



日蓮宗靈断師会 総合研究所 教育部長  
大分県大分市妙親寺聖徒団 団長  
廣田 学良

## 釈尊成道会



めず、弱肉強食の悲惨さを強く思い、どうすれば共存共栄の生活を得られるのかと思ひ悩まれた。」と述べられています。

純粋な心に立ち返つた時に、当然と思つていたことに新たな発見があり、また蒙昧であつたと心底から自省することがあります。ただ積尊と私たちの相違は、一瞬と継続の相違でありましょうか。

とにかく、積尊は悲しみの窓が大きく開かれた方であられたことに間違いありません。若い頃からこのよ

であつたと言われています。御年二十四歳、意を決し家族を残し、ついに王城を後にして求道の旅に出ます。師を求め、教えに従い、すさまじい修行を続けられた積尊は、師の説く三昧の境地、安心の域に直ちに踏み込まれたとあります。しかし、その安心も刹那のもので、真に自身の安らぎを得るものではありませんでした。

心身ともに憔悴した積尊は尼連禪河に身を浴し、六年間の苦行で変わり果てたご自身の姿を水面にご覧になります。まさしく疲労しきつたお姿であつたことが想像されます。

日暮れて道遠しの想いの中、岸に上がり人里の景色にたえずむその時、ふとどこからともなく聞こえてくる村娘の美しい唄声、強く弦を張れば切れ、緩めれば音が出ない。この唄は「琴の弦」を喩に心のあり様を教えるものでありました。

積尊は六年間の苦行と王城の優雅な生活をこの唄に重ね合わせ、ご自身を振り返られました。そして何よりも村娘スジャータの供養、乳粥を食された時、今までに実感したことのない美味しさを、全身に浸み入るこの美味の恵に幸福の在所と全体生命の仕組み、すなわち縁起の法に気付かれたのであります。

積尊はこの唄と全身に感じた美味をヒントに、新たな心念で菩提樹の下に坐し、明星天に輝く未明、遂に大悟されたのであります。これはまさしく、人類普遍の【無意識の無明】を打ち破り、前人未踏の境地に立ち至つた瞬間と言えましょう。

積尊はこの法悦にひたり、このまでの涅槃を思われたのであります。が、梵天が一切衆生の救済を願ひ、その後、伝道五十年のご生涯を懸命に尽され、御年八十歳を持って安詳としてクシナガラに入涅槃されたのであります。

法華経は積尊の菩提樹下の正覚の姿は方便(衆生教化の手立)であつて、実は悠か久遠の昔に仏陀であつたと説きます。つまり、積尊が菩提樹下において大悟されたことは、ご自身の内に生まれながらに久遠の

御本仏が厳然として備わり、しかもご自身が久遠の御本仏の一生を今ここに有限に顕しているという気づきであつたと理解されます。実はここに成道の真実を説く法華経の素晴らしさが輝きます。なぜなら、これは積尊お一人のことではなく、同じ人間として私たちがまたそうであるということの導きとなるからであります。

日蓮大聖人様は「船守弥三郎許御書」に、

「過去久遠五百塵點のそのかみ、唯我一人の教主釈尊とは我ら衆生の事なり」とご教示くださいました。しかし私たちがいかに立派な宝珠を秘しているても、そのままではせつかくの価値を失います。

今、私たちが省みなければならぬ事は、積尊成道に学ぶ原点への回帰であります。この真実を根幹として人生を育み、その上に社会が創造されていかなければ、私たちは虚しい歴史を繰り返すこと必然であります。

積尊がこの世の儂さに涙し、心を砕かれた共存共栄の悲願が日蓮大聖人様に感応し、大曼荼羅御本尊として結実したことを拝する時、お題目を自利のみの小箱に留めてはならないことが梵鐘の響きの如く深々と思われてなりません。



**津軽宇田山 閻法寺**



12月15日 午前11時より  
「大黒天神大祭」  
毎月 最終日曜日「盛運祈願会」

〒030-1403  
青森県東津軽郡外ヶ浜町平館元宇田52-2  
TEL 0174-25-2712

住職 工藤 堯幸  
副住職 工藤 堯慎・修徒 工藤 堯顯

妙正寺聖徒団 熊田英樹



12月8日(日)午前11時  
いしくそんじょうどうふ はしほつりきかひんい  
積尊成道会。星祭祈願祭。(お炊き上げ)  
毎月1日午前10時 盛運祈願会

旭川FMリベールFMラジオ 83.7MHz  
「マダムケロのちよと長話」  
12月3日、18日午前11時より、  
閻魔大出演中  
インターネットでも聞くことが  
出来ます  
サイマルラジオから  
旭川FMリベールをクリック

妙正寺聖徒団 団長 関 龍雄  
〒071-1423  
北海道 上川郡 東川町 東町2丁目6-3  
TEL 0166(82)2714 FAX 0166(82)2914

いかされるよろこび



美濃乃國  
常唱寺 聖徒団

〒501-3734  
岐阜県美濃市千畝町2738-2  
TEL/FAX 0575(33)1430

本山 妙顯寺



天目聖人御報恩  
平成屋根等大改修  
ご寄付募集中!

●郵便振替  
口座番号 00180-6-267327  
口座名義 妙顯寺建設委員会

〒327-0843 栃木県佐野市堀米町264  
TEL 0283-22-1524  
FAX 0283-22-4194  
<http://www.sano-myoukenji.jp>

日蓮宗靈断師会会長  
感通寺聖徒団 団長  
新聞 智雄

〒162-0044  
東京都新宿区喜久井町39  
TEL 03-3209-8782  
FAX 03-3208-7966

# 「教学・霊断法解説講師合同研修会」を開催

九月十日から十一日、「教学・霊断法解説講師合同研修会」が名古屋クラウンホテルを会場に一泊二日の日程で開催された。この研修会は、霊断師のさらなる資質向上に資する為、全国で開催される研修会・勉強会に派遣される『講師』の為の研修会である。

開催前日には、「みおしえ研修会」も行われており、今回は「同研修会」に参加した霊断師も参加を許され、二十九名の会員が参加した。一日目は霊断法研修を行い、石黒泰良講師（総合研究所・九識霊断法研究部長）による講義を受講。その後、参加者による実習が行われた。

二日目は教学で、小泉輝泰講師（総合研究所・新日蓮教学研究部長）による運命観・俱生神観の講義を受講。その後、参加者の講義実習が行われた。



両講師共に、大変分かり易く、気合充分の講義で、参加者より「大変有意義な研修会でした。また、参加者による実習もあり、緊張感を持って講義に臨む事が出来まし

た。このような研修会に、機会があればどんどん参加していきたい」との感想が多数寄せられる、実りある研修会となった。

## よろこびちゃんの質問箱



### 年賀状の作法教えて？

この時季よく見かける「年賀状のマナー」。その中からいくつかをご紹介しますね。

#### ◇「去」は忌み言葉。

そのため、「去年」という言葉の代わりに「旧年」や「昨年」を使うようにしているのよ。

#### ◇「新年あけましておめでとう」は重複表現。

だから「新年あめでどうございませう」あるいは「あけましておめでとうございませう」が正しい表現なのよ。

#### ◇「元日」とは「一月一日」を意味し、「元日」は「一月一日の朝」のこと。

だから「平成二十六年一月一日元日」は間違いで、正しいのは「平成二十六年一月一日」か、「平成二十六年元旦」とするのがいいのね。

という場合は「一月元日」「正月元日」も止めたほうがいいということね。

#### ◇他にも、添え書きには句読点は付けない、といわれているわね。

挨拶状などで相手に敬意を払う場合には、句読点は付けないのね。（※これは、法事のご案内等でも同様。）

今年一年に感謝して、希望に満ちた平成二十六年になりますように！



よろこびちゃんへの質問募集中！

## 俱生神月守・霊断法のご案内

◆人にはみなそれぞれ「人生」という道がある。しかしその道の先はよくは見えず、地図もない。この先には大きな河が横たわっているかも知れず、大岩が障害物となっているかもしれない。人は誰もそれに気づかず「今」のみを飄々と歩く。そして河に阻まれ打ちひしがれ、大岩を前に愕然とする。◆私たちが日蓮宗聖徒団には九識霊断法という秘法があります。◆これは俗に言う占いの類とは違い、日蓮聖人のみ教えから生まれた有り難い秘法です。◆カーナビのように河や大岩など人生の中で進むべき道を阻む障害物を見通し、その迂回路を指し示し目的地へと導いてくださいます。◆また聖徒団には俱生神月守という不可思議な御守があり、河の前には橋となり、大岩の前には梯子となり、困難を乗り越える力となって護って下さいます。◆難病を癒す不思議な護符もあります。◆充実した人生を歩むため、最寄りの聖徒団のある寺院、教会、結社へお出かけください。

## 日蓮宗霊断師会第四十九回全国結集身延大会

平成二十六年  
五月二十日(火)  
唱題修行  
二十一日(水)  
奉告式

初冬の候、聖徒の皆様には、お変わりなく日々ご精進の事と存じます。

さて来る明年五月二十日(火)・二十一日(水)の両日に亘り、宗祖日蓮大聖人の魂魄おわします聖地身延山に於いて「第四十九回全国結集身延大会」を開催致します。

この大会は、聖徒皆様の強盛なる法華経信仰の証として、長きに亘り積み重ねてきた結集大会です。

日蓮大聖人が、「法華経を信ずる人は冬のごとし。冬は必ず春となる。いまだ昔より聞かず、見ず、冬の秋とかわれる事を。いまだ聞かず、法華経を信ずる人の凡夫となる事を」とご教示されているように、聖徒の皆様の日々の信心の姿は、必ず浄土顕現の礎となり、大輪の花を咲かせる事でしょう。

身延大会当日は、未来へ向けて更なる志を重ねるため、共に異体同心に御題目の火を灯しましょう。



### 第三十回 日蓮大聖人の歩まれた道 鎌倉での修学(その七)



総合研究所  
教学研究部長  
小泉 輝泰

「国中の上下を誑惑し、代を挙げて念仏者と成り、人毎に禅宗に趣く。存の外に山門の御帰依浅薄なり。国中の法華・真言の学者、弃置せられたんぬ。故に叡山守護の天照大神、正八幡宮、山王七社、国中守護の諸大善神、法味を喰わずして威光を失い、国土を捨てて去り了んぬ」  
(安国論御勸由來)

修学中の蓮長は、目的であった佛法の学習のみにとどまらず、武士の力による新しい国政や、経済の仕組みに始まり、庶民の文化や生活の様子に至るまで、様々なものに興味を持ち、広く見聞していったものと思われまふ。後に日蓮さまが檀越方に与えられたお手紙を拝するに、武家、庶民、男性、女性、そして幼少の者に至るまで、様々な立場の人々に対し、実に当を得た内容をしたためら



れているのは、こうした実体験をお持ちであったからでしょう。

こと佛法に関しては、諸宗の内でも特に念佛と禅について学ばれたと言われています。当時の鎌倉では、武家や庶民の信仰として念佛(浄土)の教えが広く信仰されていました。また新しい信仰として、禅の教えも台頭し始めていたのです。もちろん以前よりある天台や真言といった密



教の勢力もいまだ健在ではありましたが、国家や一族の安泰を祈念するような特権階級向けの信仰から、より庶民的である念佛や禅などの鎌倉新佛教が当時の流行となりつつあったのです。  
その上で鎌倉市中を見渡せば、人々の暮らしは決して平穏ではなく、多くの庶民が貧困に喘いでいました。また以前ご紹介したとおり、北条氏に関わる人々の非業の死や、仁治二(一二四一)年の大地震による大変な被害など、佛法守護の神々がこの国をお護り下さっているとは思えない惨状を、蓮長は目の当たりにするのです。

そこで「何故に」という疑問が湧いてくるのは、至極当然のことであつたでしょう。それ故に、人々が今熱心に信仰している念佛や禅の教えの真義を、まずは学ばんとしたに違いありません。  
そしてこの経験こそが、後に日蓮大聖人となられ、旭が森でのお題目始唱、立教開宗を宣言されるに至る、大転機となる道へ蓮長を導いていく事となつたのです。

### 法華経のお話 28



総合研究所主任

塩入 幹 丈

#### 無量義経の段十三年十二月

大轉輪王小轉輪王。金輪銀輪諸轉輪王。(無量義経徳行品第一)

①「虎は死して皮を残し、人は死して名を残す」(歐陽脩)

そうは言っても、後世に残った名が、本人自ら名乗っていた名前ではなく、死後に贈られた名前が多いというのも、意外なる歴史の真実。

そう言えば、あのイエス・キリストでさえ、その当時の名と言えば「ナザレのイエス」。ご存知の通り、ナザレのイエスと言えば、一世紀の中東、ガラリアの地(今のパレスチナ)において、病氣治しの奇跡で多くの信者を集め、ユダヤ教内における新興宗教的な勢力を作り上げた人物。

それゆえにイエスは既存の権力と対立し、十字架に架けられて処刑された(俗に十三日の金曜日だったと言います)わけですが、その処刑の日から三日後、復活したイエスを目撃する弟子

たちが続出します(この復活の日を祝うのがイースターです)。

このイエスの復活という神秘体験を感得した弟子たちは、導師イエス(ジーサス)こそは、実は救世主(メシア)クライストすなわちキリスト)だったと主張し始めます。これこそが世界最大の宗教となるキリスト教の起り。

佛教は佛陀が唱えた宗教ですが、キリスト教は、厳密にはイエス・キリストが唱えた宗教ではなく、「ナザレのイエスはキリストだった」と信じた人々が起こした宗教なわけですね。

ですから、イエス・キリストと言うのは、本来は「イエスは救世主である」、あるいは「イエスは救世主だと信じる」という意味。

妙法蓮華経に身も心も捧げますの「南無妙法蓮華経」や阿彌陀佛に身も心も捧げますの「南無阿彌陀佛」と同様、信仰者の信心を現わす言葉なのです。

本来は、キリスト教信者内でこそ通用すべき言葉のはずですが、今やキリスト教以外の人々にも広く伝わり、名

前そのものになってしまっていることは、皆さんもご存知の通り。  
何しろ、もしも、もしも万が一にも、イエスがホントのほんまにキリストだったとしたら、キリスト教の教えを信仰せず、ハルマゲドンの後に永遠の地獄の業火に焼かれ続けることになるはずの私たち佛教の徒ですら、「イエス・キリスト」と平気で呼んじやているのは、おかしな話なんですね。

②だが人よ名を問うなかれ(サスケOP)

東照大権現と言えば、「日光を見ずして結構と言ふなかれ」でお馴染みの、日光東照宮に祀られる徳川家康の神号。これも家康亡き後の贈り名になるわけですが、現代においては、その当時の名、徳川家康を以て広く皆に知られるところでしょう。

豊国大明神の名を持つ豊臣秀吉も、総見院殿贈大相国一品泰嚴大居士(あるいは天徳院殿龍嚴雲公大居士、または定門)たる織田信長も、今となっては、死後ではなく生きていた時の名前で有名だと言えるでしょう。

ただし、当時その名が使われることは、まず滅多にはないことでした。殊に彼らの家臣が、「信長様」や「秀吉様」と話しかけるなんて、死を覚悟でもしないかぎり、絶対にありえないことだったので……。

そうです、死後の名前ではなく、ちゃんと存命中の名前で歴史に名を残した方々の場合、むしろ当時はその名前の人から呼ばれることが、まずあり得なかつたという、いわば逆のパターンも、結構あるわけですね……。



# よろこび法話

## 年末の大掃除 心も一緒に



日蓮聖師会 総務部 警部在  
和歌山県和歌山市妙喜聖徒団 団長  
蘆田 恵教

今年も早いもので残り一ヶ月になりました。もう少ししますと、どちらの家でも大掃除をされると思います。不思議なもので、どんなにこまめに掃除をしてもホコリは出てきます。大掃除になりますと、普段出来ない所もしますので更に大変ですね。

皆さんも、掃除を好きという人は少ないのではないのでしょうか。近年は全自動お掃除ロボットが良く売れているようですが、やはり「喜んで」というよりは、仕方なくされているという人が多いのではないのでしょうか。しかし、「掃除」は実は大変大事な事なのです。

お坊さんの修行の基本は、「一掃・二経・三学」といわれています。まず第一は「掃除」です。ですから、朝起きたら掃除から一日が始まります。二番目が「お経」で、三番目が「学問」です。お経や勉強をすることはもちろん大事ですが、それ以上に大事なものは、身の回り、住んでいる場所、自分に関わる所を綺麗に掃除することなのです。

この「二掃」はお坊さんに限りません。例えば、日本には柔道、剣道、茶道、華道など、武術や稽古事が沢山ありますが、昔からそれらの稽古の前と後には必ず稽古場の清掃をします。それは技術そのものの習得と同時に、心を磨くための道でもありますので、心をこめて道場の清掃をすることは、とても大事な修行になるのです。武術や稽古事の奥義を極めることは、即ち、人間の奥義を極めることであり、そのために道場の清掃はきわめて大切な修行とされてきたのです。

法華経に「遠塵離垢」という言葉があります。「塵を払って垢を除く」という意味で

すが、「一掃」には、体の中に溜まった塵や垢を除くという意味も含まれています。家の中を綺麗にする、自分が生活している場所を綺麗にする。そうすることによって自分自身の気持ちもすこく綺麗になつていきます。私も「そう心に留めて掃除を励みなさい」と、修行中はよく言われました。自分自身を綺麗にすることも大事ですが、それと共に自分だけが着飾るだけでなく、自分自身の生活している場所を綺麗にすることによって、自分自身の気持ちもすこく綺麗になっていく。それがお経の中で言われている「遠塵離垢」という事なのです。

人間という者は生きていくと、どうしても心の中に垢が溜まってしまう、それを少しでも取っていかないと、努力しなければなりません。また精進の心がなければなりません。日蓮大聖人は「光日房御書」の中で、「小罪なれども懺悔せざれば悪道にまぬがれず。大逆なれども懺悔すれば罪きえぬ。」と言われました。どんなに小さな罪でも



も、悔い改めなければ幸せは遠のいていきます。しかし、たとえどんなに大きな罪でも、それを悔い改めれば罪は消えていくのです。

少しでも、溜まった垢は取っていく努力をしなければなりません。それには「南無妙法蓮華経の唱題修行」と「懺悔文」は欠かせませんが、その前に「掃除」をして頂き、身の回りを綺麗にして、自分自身の心も綺麗にしていく。そうしていくと一層「信心」の心が育まれ、また「功德」も積むことが出来るのです。

一人一人が自分の身の回りから始まり、家の周りに至るまで、掃除をする事が出来たなら、町や国が、そして世界が綺麗になって、美しい地球にする事が出来ます。それは同時に、一人一人の心を綺麗にし、きつと私達の心の中の仏様も喜んで幸福へと導いてくださることでしょう。

日頃から、すすんで掃除する習慣を身につけて「心を遠塵離垢」出来るように、まずは年末の大掃除を家族みんなで致しましょう。

本誌イラスト 小川けんいち

**砥森山 法華寺**

生きて救われの道場

住職 阿部 是秀  
副住職 阿部 是眞

〒028-0304  
岩手県遠野市宮守町下宮守31-69-1  
電話 0198-67-3166  
FAX 0198-67-2227

**正立山 妙法寺番神聖徒団**

団長 新聞 信應

毎月1日 10時  
盛運祈願祭

お困り事はすぐ相談

神秘秘密の扉が開く時、必ず利益がいただける。

〒690-2404 島根県雲南市  
三刀屋町三刀屋1169  
TEL 0854-45-3657  
FAX 0854-45-3666

安房乃國随一  
三十番神祈願道場

**顕本寺聖徒団**

団長 小泉 輝泰

「1人で悩まず、まずは相談」

〒295-0002  
千葉県南房総市千倉町川合690-1  
TEL 0470-44-1062  
FAX 0470-44-1524

信用第一の専門店

◇格調高い関東風仏具◇

宗務院指定

仏壇・仏具 仏像彫刻  
内陣荘厳具 設計製作

**(株)中野三佛屋**

東京都台東区寿2丁目7の12  
電話 03(3843)6951  
FAX 03(3843)6973  
定休日 日曜日

北海道運輸局長  
認証工場(第4-1095号)です!

お車のことなら  
どんなことでも!!

**車買取のエース**  
1.0166 34-3606

(有)キクチ自動車  
〒078-8346  
北海道旭川市東光6条6丁目190-100  
TEL/FAX 0166-34-3606